

## 令和3年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立雪谷小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・ 児童がより音楽に親しめるように、様々な曲に触れる機会を設けたり、コロナ対策をしながら体を使ったりする活動を取り入れた。また、同じ曲でも様々な難易度の楽譜の中から選べるようにした。その結果、児童が楽しみながら前向きに活動するようになった。
- ・ 演奏を発表する機会を設けることで、目的意識をもって取り組み、達成感を得られるようになった。
- ・ 児童が表現の工夫をしやすいように、発達段階に応じた手立てを講じることによって、多くの児童が最後までやりきることができた。
- ・ 基礎的な技能の向上のため、学年に応じてコロナ対策をしながら常時活動に発声練習、指の練習等を取り入れたことで、歌唱や器楽の技能の定着が図れた。
- ・ 演奏を録音して聴く活動を取り入れたことで、自分たちの演奏の良さや改善点を客観的に理解し、より良い演奏に向けて練習をすることができた。
- ・ 友達と話し合う活動を取り入れることで、自分のアイデアにはなかった新たな考えを取り入れて、より深く音楽を演奏したり、聴いたりすることができた。
- ・ 少人数で教え合う活動を行い、コミュニケーション力の向上や、演奏を苦手とする児童の楽器演奏の習得に向上が見られた。
- ・ トライアングルやタンバリンなどの楽器に触れる機会を多く設定した。そのため、リズムよく演奏することを目指したり、音そのものを楽しんだりするようになった。また、子供同士の教え合いが見られ、学習していた。
- ・ 発表の場を設けたりすることによって、教え合いや多様な表現に触れることができ、活動内容が高まってきた。
- ・ 階名による暗唱により、鍵盤ハーモニカの演奏では、音の違いに気付く児童が増えた。
- ・ 鍵盤ハーモニカの練習では、練習用の教材を使い、同じ級の中から任意の曲を選べるようにした。そのため、苦手な児童も取り掛かりやすく、得意な児童はより高度な曲を選択し、意欲をもって取り組むことができた。
- ・ 楽曲や演奏の楽しさを味わいながら聴いたり、体を動かしたり、口ずさんだりできる児童が多かった。
- ・ リズムを「タン」「ウン」など言いながら手打ちをすることで、音符と音の長さとの関係が身に付いていた。

#### (2) 課題

- ・ 昨年度はコロナ対策のため、歌唱や合奏、身体表現の領域に制限があり、できない活動が多かった。コロナ対策をしながらも、できる範囲で技能を伸ばしていきたい。
- ・ 鑑賞では、言葉や文で表現する場合、表現する力の個人差が大きかった。
- ・ 発表をする機会が昨年度はコロナ対策のため、実施できないものが多く残念だった。意欲や技能の能力の向上につながるので、コロナが落ち着いたら発表の場を多く設けていきたい。
- ・ 技能の習得に努力を要する児童への個別の指導を行っているが、より達成感を高められるようにさらなる工夫が必要である。
- ・ 話し合いの活動は、お互いの考えが深まるために、話し合いの際の手立てに工夫を凝らすことが必要である。

## 2 授業改善のポイント（観点別）

### (1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>正しい音程感やフレーズ感、リズム感を育てるために、範唱や範奏を聴かせたり、リズム打ち、階名唱や暗譜の活動を取り入れたりする。 (指導計画)</li> <li>鍵盤ハーモニカの技能向上のため、指や手を動かす活動をする。また、個別指導や互いに学び合う時間を設ける。 (授業構成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲の様子に合わせて体を動かして曲調の変化に気付けるようにし、曲に合った表現ができるようにする。 (授業構成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しく取り組めるように、体を使ったリズム遊びを取り入れる。 (授業計画・授業構成)</li> <li>より音楽に親しめるよう、季節の歌やいろいろな曲を聴く機会を設ける。 (授業構成)</li> </ul>

### (2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの歌や演奏を録音して聴く場面を作り、改善点に気付けるようにする。 (授業構成)</li> <li>演奏に努力を要する児童には少人数で個に応じた指導をする場を設ける。 (授業形態)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>演奏や音楽づくりでは、工夫のある表現ができるよう、演奏を発表し合う場を設け、教師が演奏を価値付けたり、意見交流したりする。 (授業構成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表する場を設けて達成感を味わったり、感想を交流したりしながら、互いの良さを認め合えるようにする。 (授業構成)</li> </ul>

### (3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>演奏する力を向上させるために、互いの音を聴きながら少人数のグループで練習する場を設ける。 (指導計画)</li> <li>演奏に努力を要する児童には、個に応じた指導の場を設ける。 (授業形態)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的に表現を工夫できるように、音楽づくりの手順やルールを柔軟にする。 (授業構成)</li> <li>工夫した表現ができるように、中間発表等の機会を設ける。 (授業構成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの児童も意欲的に演奏に取り組めるように、様々な難易度の楽譜や楽器のパートを用意し、児童が選べるようにする。 (指導計画)</li> </ul>

### 3 今年度の授業改善推進プログラムの検証

#### (1) 成果

- ・ トライアングルやタンバリンなどの楽器に触れる機会を多く設定した。「タン」「ウン」など、リズムよく演奏することを目指したり、音そのものを楽しんだりするようになった。
- ・ 児童がより音楽に親しめるよう、様々な曲に触れる機会を設けたり、コロナ対策をしながら体を使ったりする活動を取り入れた。また、同じ曲でも様々な難易度の楽譜の中から選べるようにした。その結果、児童が楽しみながら前向きに活動するようになった。
- ・ 演奏を発表する機会を設けることで、目的意識を持って取り組み、達成感を得られるようになった。今年度は特に70周年記念式典があったため、6年生は活動の場があり、技術的にも向上した。
- ・ 児童が表現の工夫をしやすいよう、発達段階に応じた手立てを講じることによって、多くの児童が最後までやりきることができた。
- ・ 基礎的な技能の向上のため、学年に応じてコロナ対策をしながらできるときは発声練習、指の練習等を取り入れたことで、歌唱や器楽の技能の定着が図れた。
- ・ 演奏を録音して聴く活動を取り入れたことで、自分たちの演奏の良さや改善点を客観的に理解し、より良い演奏に向けて練習をすることができた。
- ・ 少人数で教え合う活動を行い、コミュニケーション力の向上や、演奏を苦手とする児童の楽器演奏の習得に向上が見られた。
- ・ トライアングルやタンバリンなどの楽器に触れる機会を多く設定した。そのため、リズムよく演奏することを目指したり、音そのものを楽しんだりするようになった。
- ・ 階名による暗唱により、鍵盤ハーモニカの演奏では、音の違いに気付く児童が増えた。
- ・ 鍵盤ハーモニカの練習では、練習用の教材を使い、同じ級の中から任意の曲を選べるようにした。そのため、苦手な児童も取り掛かりやすく、得意な児童はより高度な曲を選択し、意欲をもって取り組むことができた。
- ・ 楽曲や演奏の楽しさを味わいながら聴いたり、体を動かしたり、口ずさんだりできる児童が多かった。
- ・ リズムを「タン」「ウン」など言いながら手打ちをすることで、音符と音の長さとの関係が身に付いていた。

#### (2) 課題

- ・ 低学年は、感染症の状況により鍵盤ハーモニカの演奏ができないときがあった。息を入れずに運指練習だけ可能な限り行ったが、身に付けるべき力を付けられているのか課題がある。
- ・ 今年度はコロナ対策のため、歌唱や合奏、身体表現の領域に制限があり、できない活動が多かった。コロナ対策をしながらも、できる範囲で技能を伸ばしていきたい。
- ・ 鑑賞では、言葉や文で表現する場合、表現する力の個人差が大きかった。
- ・ 発表をする機会が今年度はコロナ対策のため、実施できないものがあり残念だった。意欲や技能の能力の向上につながるので、コロナが落ち着いたら発表の場をさらに設けていきたい。
- ・ 技能の習得に努力を要する児童への個別の指導を行っているが、より達成感を高められるよう、さらなる工夫が必要である。
- ・ 話し合いの活動は、お互いの考えが深まるために、話し合いの際の手立てに工夫を凝らすことが必要である。